

<研究概要様式>

課題番号(e-Rad 課題 ID):23812757

公募研究課題名:「脂溶性貝毒アザスピロ酸のモニタリング技術の高度化」

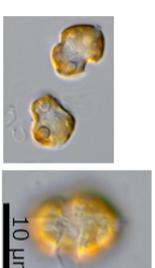
- 1 研究実施期間:令和5年度～令和9年度(5年間)
- 2 予算規模:7,500千円(令和5年度)
- 3 代表機関・研究総括者
国立研究開発法人水産研究・教育機構水産技術研究所 環境・応用部門
水産物応用開発部 安全管理グループ長 松嶋 良次
- 4 研究開発の目的・達成目標
国内の二枚貝の複数種についてアザスピロ酸の蓄積特性を明らかにするとともに、地方自治体等でも実施可能なアザスピロ酸産生藻類もしくはアザスピロ酸のモニタリング手法を開発する。
- 5 研究開発の内容および実施体制
 - ① アザスピロ酸2の二枚貝複数種への蓄積特性の解明
食用となる二枚貝複数種に培養したアザスピロ酸産生プランクトンを給餌し、サンプリングした試料を解析してアザスピロ酸の蓄積特性と環境条件の相関を明らかにする。
(水産研究・教育機構水産技術研究所)
 - ② アザスピロ酸のモニタリング手法の確立
アザスピロ酸産生藻類の発生特性を明らかにする。また、アザスピロ酸産生藻類の採取方法、分子遺伝学的手法を用いた同定・定量法、微量アザスピロ酸の検出手法を開発する。
(水産技術研究所・高知大学・東京大学)
- 6 研究開発された成果の取扱い
アザスピロ酸産生プランクトンについては知見が不足しているため、本事業で得られる成果は今後のモニタリング体制やリスク管理体制の構築に向けて必須の知見であり、それらの検討に活用される。

【連絡先:水産研究・教育機構 水産技術研究所 045-788-7615】

脂溶性貝毒アザスピロ酸のモニタリング技術の高度化

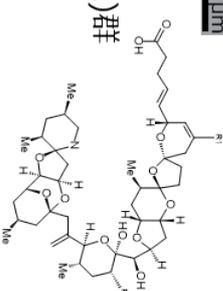
背景 アザスピロ酸

- ・Azadinitium属等の渦鞭毛藻類が生産する毒成分で、下痢、腹痛、嘔吐などの食中毒症状を引き起こす。
- ・60種類以上の類縁体があり、国際的には主要成分のアザスピロ酸-1(AZA1)当量で0.16 mg/kgが二枚貝の基準値。
- ・国内の二枚貝からも微量にアザスピロ酸類が検出されることがあるが、アザスピロ酸を生産する藻類について、国内での知見が不足。



アザスピロ酸産生種
Azadinitium poporum

アザスピロ酸(AZA)群



研究内容

- ・国内の二枚貝の複数種についてアザスピロ酸（アザスピロ酸）の蓄積特性を明らかにする
- ・アザスピロ酸産生藻類もしくはアザスピロ酸のモニタリング手法を開発

アザスピロ酸産生フランクtonの給餌による
二枚貝アザスピロ酸蓄積特性の解明



アザスピロ酸産生フランクtonの採取や分子遺伝学的
的手法を用いて分布・発生状況を明らかにする

成果：行政施策・措置への貢献

アザスピロ酸、アザスピロ酸産生
フランクtonのリスク評価

- ・研究成果の公表
- ・道府県関係者との共有
- ・二枚貝生産者への情報共有

モニタリング体制やリスク管
理体制の検討・構築

< 研究概要図 >